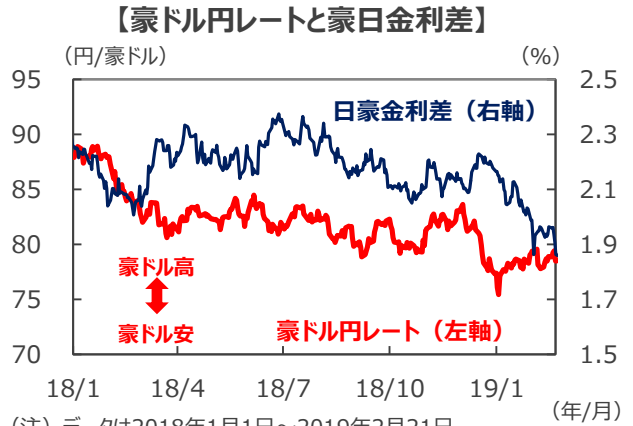


今日のトピック ボックス圏で推移する豪ドル相場（2019年2月）
豪ドルは底堅い見込み、米中貿易協議の進展に注目

ポイント1 **豪ドルはボックス圏で推移**
年明け以降77円台～79円台

- 豪ドルの対円相場は、今年に入り概ね1豪ドル＝77円台～79円台のボックス圏で推移しており、直近では78円台となっています。
- 米中貿易協議の進展が期待される中、米国が利上げの打ち止めなど金融政策のハト派的な姿勢への転換が見られたことから、世界的な景気減速懸念が和らいだほか、ブラジル大手鉱山企業が鉄鉱石の減産を表明したことで鉄鉱石価格が急騰したことなどが豪ドル相場を下支えしました。



ポイント2 **金融政策スタンスは中立へ**
実質GDP成長率等の見通し引き下げ

- 一方、豪州準備銀行（RBA）の金融政策にはスタンス変更があり、豪ドルの上値を抑える材料となっています。RBAは政策金利を据え置いています。10月RBA総裁は講演で、これまでの利上げを見込む姿勢から、中立的な姿勢への移行を明確に示しました。
- また、2月8日に公表されたRBAの四半期金融政策報告では、実質GDP成長率や消費者物価指数の見通しが引き下げられました。これにより、利上げ期待が後退し、豪ドルの下落要因となりました。

【RBAの経済、インフレ予測】

実質GDP	2018年 10-12月期	2019年 4-6月期	2019年 10-12月期	2020年 4-6月期
2月予想	2.75	2.50	3.00	2.75
11月予想	3.50	3.25	3.25	3.25
修正幅	▲ 0.75	▲ 0.75	▲ 0.25	▲ 0.50
消費者物価	2018年 10-12月期	2019年 4-6月期	2019年 10-12月期	2020年 4-6月期
2月予想	1.80	1.25	1.75	2.00
11月予想	2.00	2.00	2.25	2.25
修正幅	▲ 0.20	▲ 0.75	▲ 0.50	▲ 0.25

(注) 予測値の数値は前年同期比、単位は%。
(出所) RBAの四半期金融政策報告を基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 **豪ドル相場は底堅い見込み、米中貿易協議の進展に注目**

- RBAの四半期金融政策報告で経済見通しが引き下げられましたが、これは主に米中貿易摩擦激化の影響等から中国等で景気減速が見られるためです。ただし、米中の貿易協議は3月1日の期限を前に進展が期待されており、貿易摩擦が和らぎ資源需要などが高まれば、豪ドル相場には追い風と考えられます。また、豪州の1月の雇用統計では雇用者数は市場予想を上回って増加するなど、国内経済は比較的堅調です。足元では、中国当局が一部の港で豪州産石炭の輸入を禁止したと伝わり、豪ドルが弱含む要因となっていますが、堅調な国内経済と米中協議の進展等により、豪ドルは底堅く推移すると見込まれます。

ここもチェック! 2019年2月22日 『FOMC議事要旨』、利上げは打ち止めへ
2019年2月 6日 豪州の金融政策は引き続き現状維持（2019年2月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。